

第53回 島根県消防操法大会

馬木分団が準優勝纏



地元馬木地区でのパレード

県下消防団員の技術向上と士気の高揚を図る、第五十三回島根県消防操法大会が八月九日、大田市大田運動公園で開催されました。

この大会に、奥出雲町消防団を代表して、ポンプ車の部に出場した馬木分団は、二週間前に急ぎよ正選手を交代するという厳しい状況の中、見事なチームワークで、県下の強豪を相手に準優勝纏を獲得しました。

この結果、奥出雲町消防団は発足以来、五年連続の表彰



馬木分団の操法

纏獲得となり、改めてその実力の高さを県下に示しました。



三成分団の操法

また、小型ポンプの部に出場した三成分団は、雲南地区消防団操法大会で見事優勝を果たし、今大会でも活躍が大きく期待されましたが、惜しくも入賞を逃し、第六位となりました。

両団員の皆さんは、この大会に向けて、家族や地域の支え、職場のご理解のもと、長期間にわたる厳しい訓練を続けてこられました。

選手、関係者の皆さんお疲れ様でした。

また、八日には、大田市民会館で行われた、第六十一回島根県消防大会の席上において、「八川幼稚園幼年消防クラブ」が永年にわたる防火活動が評価され島根県知事から表彰を受けました。

地域と共に歩む  
島根県ホッケー協会が  
設立35周年



あいさつを述べる県ホッケー協会の絲原会長

島根県ホッケー協会が設立三十五周年を迎え、七月十九日、横田コミュニティセンターで記念式典が開催されました。

式典には、溝口県知事や県体育協会の有沢理事長、井上町長、県ホッケー協会の絲原会長など関係者約百人が出席しました。

同協会は、昭和五十七年の「くにびき国体」でのホッケー競技開催会場の決定を受け、昭和四十九年に発足。

これまで、本町からアテネ、北京オリンピックに日本代表選手を輩出し、昨年は、横田高校男子の三冠、社会人チーム「セルリオ島根」の全日本社会人大会準優勝。

今年は、同校女子が全国選抜大会で二連覇するなど各年代において全国大会で上位入賞を果たし、奥出雲町は「ホッケー王国」として県内外から大きく注目されています。

絲原会長は、ゼロからのスタートだった設立当初を振り返りながら「町民の皆さん、行政の支援に支えられ、今や全国に通じるスポーツとなった。今後もホッケー競技の普及・強化に努めて行きたい」とあいさつがありました。

なお、設立当初から理事として協会の運営に尽力されている小田川忠夫さん（三成）と原三郎さん（三成）に感謝状が贈られました。

福祉施設に車椅子五台を寄贈

奥出雲町に本社を置く株式会社「加地」が、今年創業四十周年を迎え、記念事業として、車椅子五台を町へ寄贈されました。

今回寄贈された車椅子は、自社製の超柔軟素材のEXG EL（エクスジェル）が使用され、自然な姿勢を保つことができる体圧分散構造が特徴です。



小川社長(中央)と関係者

小川國夫社長は「自社製品の六割近くが福祉分野にかかわっており、地元病院や福祉現場で役に立てほしい」とあいさつがありました。

この車椅子は、奥出雲病院に一台、仁多・横田の福祉会にそれぞれ二台寄贈されました。

仁多・横田両中学生が全国大会へ

全国大会に出場する仁多、横田両中学校の男女ホッケー部、陸上（走り高跳び）の宇田川萌乃香さん（仁多中）の激励式が、八月十一日、役場仁多庁舎で行われました。

井上町長から「全国制覇を目指し、最後まで頑張ってください」と激励のあいさつがあり、各ホッケー部主将、宇田川さんにそれぞれ激励金が手渡されました。

これを受けて、選手から「支えてもらった皆さんへの感謝の気持ちを忘れず、練習の成

果を發揮し、結果を出したい」と大会に向けた決意が述べられました。

ホッケー競技は、八月十四日から福井県で開催される第三十九回全日本中学生ホッケー選手権大会へ、また、陸上競技は、八月二十一日から大分県で開催される第三十六回全日本中学校陸上競技選手権大会へ出場します。

ホッケー競技は、男女揃っての決勝対決、また宇田川さんは、自己ベスト更新を目指して頑張ってください。



町から激励金を交付

奥出雲の新鮮野菜をPR  
野菜産地・消費者交流会



町内の旬の野菜を使った料理を味わう参加者

七月二十五日、町内の野菜生産グループが「野菜産地・消費者交流会」を開き、松江市の消費者約五十人と産直市の見学や収穫体験、旬の野菜を使った料理を一緒に味わい、交流を深めました。

企画したのは、奥出雲町野菜生産組合と三井野菜出荷組合、奥出雲町ほうれんそう協議会の三団体。

町内のキャベツ、ほうれんそうは環境に配慮した栽培に努め、県のエコロジィ農産物として認証されています。

これまで、野菜産地として、松江市内の市場でPR活動が行なわれてきましたが、更なる野菜産地としてのPR、消

費者と生産者との交流により互いに支えあえる関係づくりなどを目的として、JA雲南奥出雲町、県東部農林振興センターの共催により、本町で初めて開催されました。

参加者は、産直市「仁多特産市」を見学し、阿井コミュニティセンターでの意見交換、昼食では、地元で採れた新鮮野菜を使った料理や農産加工品をバイキング形式で味わいました。

参加者からは「奥出雲町は自然環境に恵まれたとてもすばらしいところだと改めて感じました。もっとエコロジィ農産物が増えると思う」と感想がありました。